

麻布幼稚園だより 7月号

平成28年6月30日 港区立麻布幼稚園 園長 大島 美知代

「体を動かすことが好きな子に育てよう！」

園長 大島 美知代

入園、進級してから早3か月、園児たちは友達と遊ぶのが大好きになりました。一人一人が自分の好きな遊びができ、集団としての活動に参加するようになりました。

1学期は年度当初の園児たちの生活や遊びの様子、食事の様子などを参観していただきました。参観の後には懇談会を設け、学級の方針を聞いていただきました。それは保護者と共に園児たちを大きく成長させていきたいという思いからです。

6月18日の公開日には『体を動かして遊ぶ会』として、保護者にも参加して一緒に身体を動かしていただき、『心を育てる教育講座』を開催しました。東京学芸大学教授 吉田伊津美先生の講演会を開催しました。今年度は上記の表題に記載している通り、「体を動かす遊び」を中心として研究を進めています。

吉田先生の講演の内容を少し記載します。

○**幼児の運動の発達**は1985年頃がピークであり、現在は運動能力は低下している。児童ではなく、**幼児期から低下がみられる**。特にソフトボール投げにおいては6か月遅れという結果も報告されている。その原因は運動経験が少ないと同時に生活経験が少ない（車やエレベーターに乗る、高層の住居では外に出る機会が少ない等）ことと言われている。

○**遊びとしての運動**することが望ましい。運動の教室に参加して指導を受けることが多い子より、いろいろな遊びをしている方が、**運動能力が高い**。それは量的にも運動している時間が長く、様々な運動の経験ができるからだと言われている。

○**運動遊びは体だけでなく、心も発達させる**。心情、意欲、社会性が育ち、情緒が安定する。ルールを理解、空間の概念や科学的な学びもできる。ポジティブな行動ができる子が育つ。

我が子を「体を動かすことが好きな子」にするためには「一生懸命行った行動を認める」こと。他者と比べるのではなく、我が子の取り組みと努力を誉め、自己有能感を育てることが大切である。

（講演会の内容より要約しました）

現在では当たり前前の便利な生活の中で、園児を取り巻く大人としての役割を考えていく必要があります。7月は1学期の生活のまとめの時期です。6月下旬から始めている「個人面談」において担任と保護者が今後の生活や学びの見通しをしっかりと話し合いたいと考えています。

今年度の園内研究会・アカデミー研究会の紹介

園内研究テーマ：「心も体も弾み、生き生きと活動する幼児の育成—運動的な遊びを通して—」

6月中旬に園内研究会で研究保育を行いました。それぞれの学級が「体を動かす遊び」を行い、その指導法、遊びの環境づくりが適切かどうか、全員で考える機会にしました。講師から「幼児は運動遊びの時だけではなく、生活の場面でもたくさん体を動かしている。だから遊び用具を教師が準備しすぎたり、片付けを全部してしまったりせず、できることは自分たちで行えるようにすることが大切である」と学びました。これからも遊びだけでなく、生活の中でも教師が意識して指導していきます。

六本木アカデミーの研究テーマ：「自分の考えをもち、表現し、伝え合う子供の育成」

6月24日に東町小学校の授業参観をし、授業後に小学校の教科が幼稚園や中学校とどのようにつながっているのか、を協議しました。私は「体育」の授業参観で、遊びの中で規律を守って集団行動できること、楽しんで意欲的に授業に参加することは幼稚園で育てていることが下地となり、小学校教育につながっていることを痛感しました。